

(仮称) 高知市子ども科学館

基本構想書

【概要版】



平成13年3月

高知市子ども科学館基本構想検討委員会

第1章 構想の背景

- 1 構想の経緯 1
- 2 社会環境条件の検討 1

第2章 施設の理念

- 1 子ども科学館の基本理念 2
- 2 子ども科学館の基本機能 2
- 3 高知市子ども科学館の活動コンセプトと活動重点目標 3

第3章 施設の基本的な考え方 5

第4章 展示の基本的な考え方

- 1 展示の基本方針 6
- 2 活動体験テーマ 7
- 3 展示構成 8
- 4 展示手法コンセプト 8

第5章 運営の基本的な考え方

- 1 運営の基本方針 9
- 2 事業活動構想 9
- 3 組織体制 10
- 4 要員計画 10

第6章 事業推進計画概要

- 1 業務推進スケジュール 11
- 2 オープンに向けての課題 11

記録

- 基本構想検討委員会記録 12

第1章 構想の背景

1 構想の経緯

今日学校教育の現場では、理科離れ、学級崩壊、不登校などの問題が生まれ、家庭や地域社会に目を向けても、核家族化、少子化、地域の人々の結びつきの希薄化、遊び場の減少など、それらが元来教育に果たしてきた役割が十分果たせなくなってきています。もちろんこれらの役割は今でも大変大きなものですが、同時に新しい解決策も考えていかなければなりません。

いつの時代でも、未来の社会を担う子どもたちが限らない夢と創造力を持ち、たくましくのびやかに成長していくために、また、自然と生命を慈しみながらお互いを尊重しあって生きていくために、私たちはその学びの場・遊びの場として、特定の機能を備えた「子ども科学館」を創り、子どもたちへの贈り物としたいと思います。この贈り物が、歴史上多くの人材を輩出してきた教育文化都市・高知にふさわしいすばらしいものとなるように、との願いを込めて、本構想書はまとめられました。

2 社会環境条件の検討

1 子どもと教育をとりまく現状

学校、家庭、地域共同体に続く第四の学習環境の必要性

2 自然と環境をとりまく現状

自然とのふれあいを入り口に地球環境との共生を考える機会づくりの必要性

3 科学と技術をとりまく現状

多角的・総合的な視点で科学を捉える能力・態度を養う必要性

第2章 施設の理念

1 子ども科学館の基本理念

1) 現代社会の多様な教育ニーズに応える地域における第四の学習環境

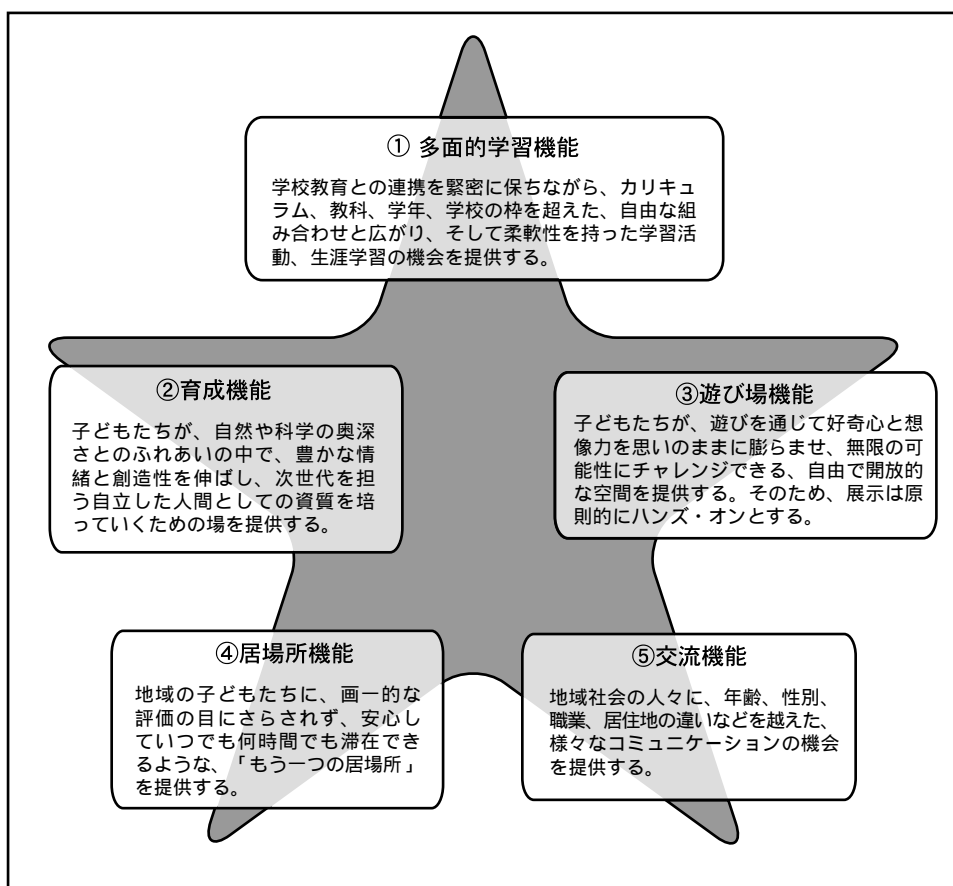
2) 身近な自然とのふれあいから地球との共生を考える環境体験学習の場

3) 科学・技術をテーマとした多角的・総合的な参加体験学習の場

を集約した

子どもたちにとっての
総合サイエンス基地
(仮称)高知市子ども科学館の整備

2 子ども科学館の基本機能



3 高知市子ども科学館の活動コンセプトと活動重点目標

1 施設の独自性と魅力のために

“高知らしさ”をアピールする、他にはないユニークな施設であること



1. 龍馬スピリット
2. 高知の雄大で変化に富んだ自然を活かした展示テーマ
3. 高知の持つ様々な資産（文化・歴史・地理・産業・人間）を活かした展示手法



2 活動コンセプト

これらを実現するのは、とりもなおさず施設に関わる“すべての人々の活動”です。そこで、そのような“人”が生き生きと“活動”し日々成長していくために、目指すべき指針としての明確なコンセプト、すなわち“活動コンセプト”が必要となります。そこで、当施設の活動コンセプト（キャッチフレーズ）として、

行動する科学館

を掲げ、龍馬のような新しい領域へのチャレンジ精神、積極的な行動力を発揮していくことを目標とすることとしました。

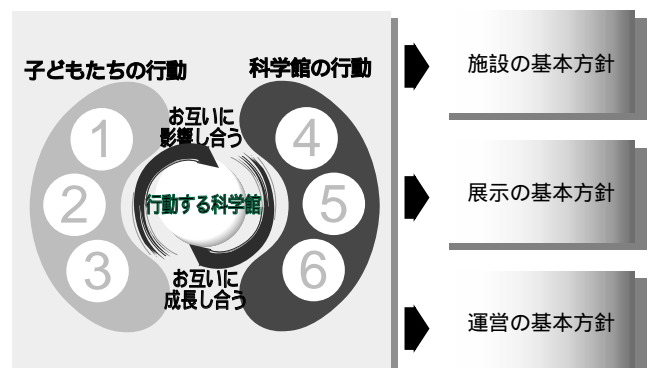
3 活動重点目標

“行動する科学館”と銘打つからには、それにふさわしい、龍馬スピリットに恥じない行動の内容によってそのコンセプトが裏打ちされていなければならないでしょう。ここではそれを、六つの活動重点目標に集約して表現しました。



4 まとめ

子どもたちと科学館がお互いに影響しあい、お互いに成長しあう関係を築き上げていく、それが「行動する科学館」なのです。当科学館の施設、展示、運営の基本方針の全ては、この考え方の下に首尾一貫して構想されていなければなりません。



第3章

施設の基本的な考え方

子ども科学館の基本理念及び「行動する科学館」という活動コンセプトに常に立ち戻り、また、施設の立地環境を十分に考慮して、敷地利用及び施設構成を考えます。

